

空中給油・輸送機（KC-46A）の 百里基地への配備について



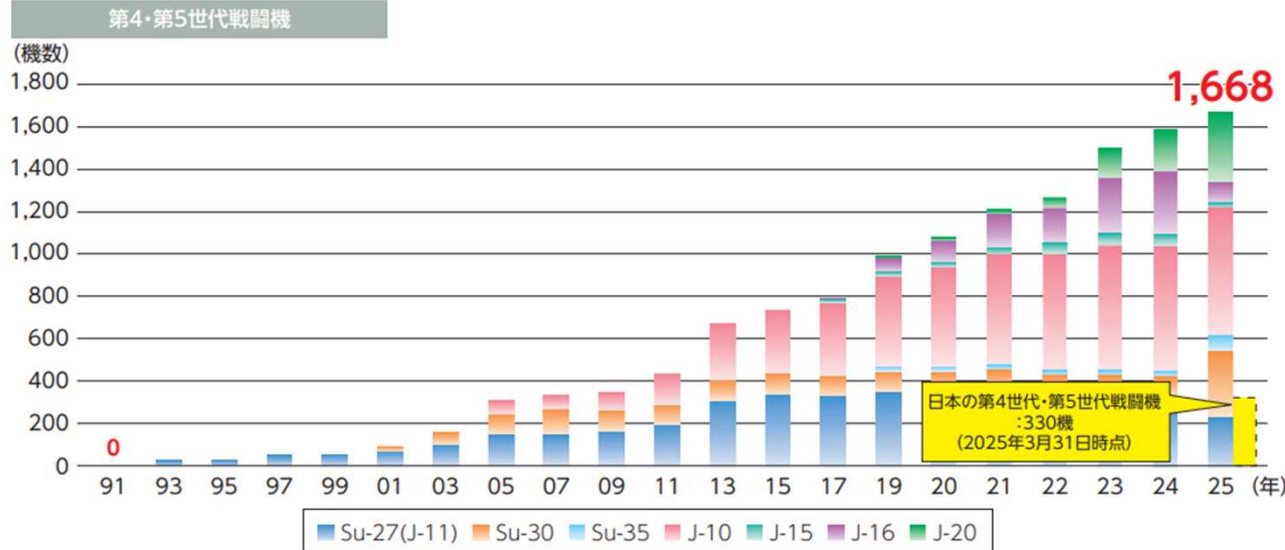
令和 8 年 6 月
防 衛 省

我が国を取り巻く安全保障環境とKC-46Aの必要性

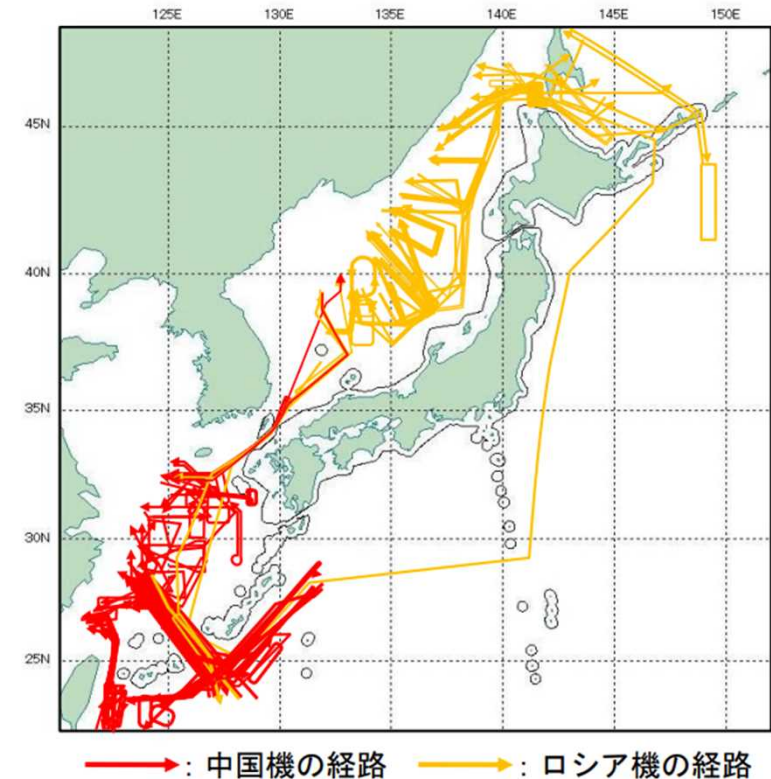
- 我が国周辺国は、ステルス性を有するとされる戦闘機を含む新型機の導入や既存機種種の改修を進め、**その航空戦力を急速に近代化**しています。
- さらに、近年、周辺国軍用機による領空侵犯が相次いでいるほか、中国とロシアの爆撃機が長距離にわたり共同飛行するなど、**航空戦力の活動も活発化傾向**にあります。
- 防衛省・自衛隊としては、高烈度な航空作戦にも対応し、また、粘り強く戦闘を継続する観点から、**空中給油機能を強化するため、KC-46Aを着実に導入し、我が国の防衛に万全を期す考え**です。

中国の主な航空戦力 (令和7年防衛白書)

図表 I -3-2-8 中国の主な航空戦力



令和6年度に緊急発進の対象となった 中露機の飛行パターン例



空中給油・輸送機（KC-46A）の概要

- KC-46Aは、**ボーイング767を改修母機として開発された空中給油・輸送機**です。航空自衛隊では、現在、KC-767とKC-46Aの二種類の空中給油・輸送機を運用しています。
- KC-46Aは、小牧基地（愛知県）に現在配備されているKC-767と比べ、**最大搭載燃料が約1.5倍に拡張**されているほか、給油方式としてフライング・ブーム方式とプローブ・アンド・ドローク方式の両方に対応※しているため、**受油機能を有するほとんどの機体に給油が可能**となっています。



性能諸元	
全長×全幅×全高	50.4m × 47.6m × 16.1m
最大離陸重量	約 188 t
最大搭載燃料	約 212,000 lbs
速度性能	約930 km/h (0.86 Machを高度1万メートルで換算)
航続距離	9,400 km
最大輸送人員	最大 104 名
貨物搭載量	約 30 t
給油方式	<ul style="list-style-type: none">● フライング・ブーム（胴体尾部）● プローブ&ドローク（胴体下部）
自己防御装置	<ul style="list-style-type: none">● 指向性赤外線妨害装置（LAIRCM）● レーダー警報受信機（RWR）● コックピット防弾板

(※) フライング・ブーム方式では給油母機が給油管（ブーム）を受油機に差し込むが、プローブ・アンド・ドローク方式では受油機が給油管（プローブ）を給油母機のドローク（ホース状の給油装置）に差し込む。KC-767はフライングブーム方式のみに対応しており、対応していない機種（例：F-35B）へは給油不可²

KC-46Aの取得

- 防衛省・自衛隊では、現在6機のKC-46Aを保有しており、美保基地（鳥取県）で運用しています。KC-46Aは計15機を取得する予定です（※）。
- 上記の15機のうち、令和7年度までに予算計上した計10機は美保基地への配備を調整中ですが、残りの5機を百里基地に配備したいと考えています。このうち2機については、令和8年度予算に取得経費を計上しており、配備時期は令和12年度を予定しています。
- 残り3機の配備時期は未定です。

和 (年 度 暦)	29	30	元	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12						
西 (年 度 暦)	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030						
KC-46A 取得計画	← 1機 ① →				← 1機 ① →				← 4機 ② →				← 2機 ② →				← 4機 ④ →			
美保基地 配備数					2		4		6				10							
百里基地 配備数														2						

（※）令和4年度までに計6機の取得を予算計上。防衛力整備計画の対象期間（令和5年度-令和9年度）中にKC-46Aをさらに計9機取得予定。

百里基地を選定した理由

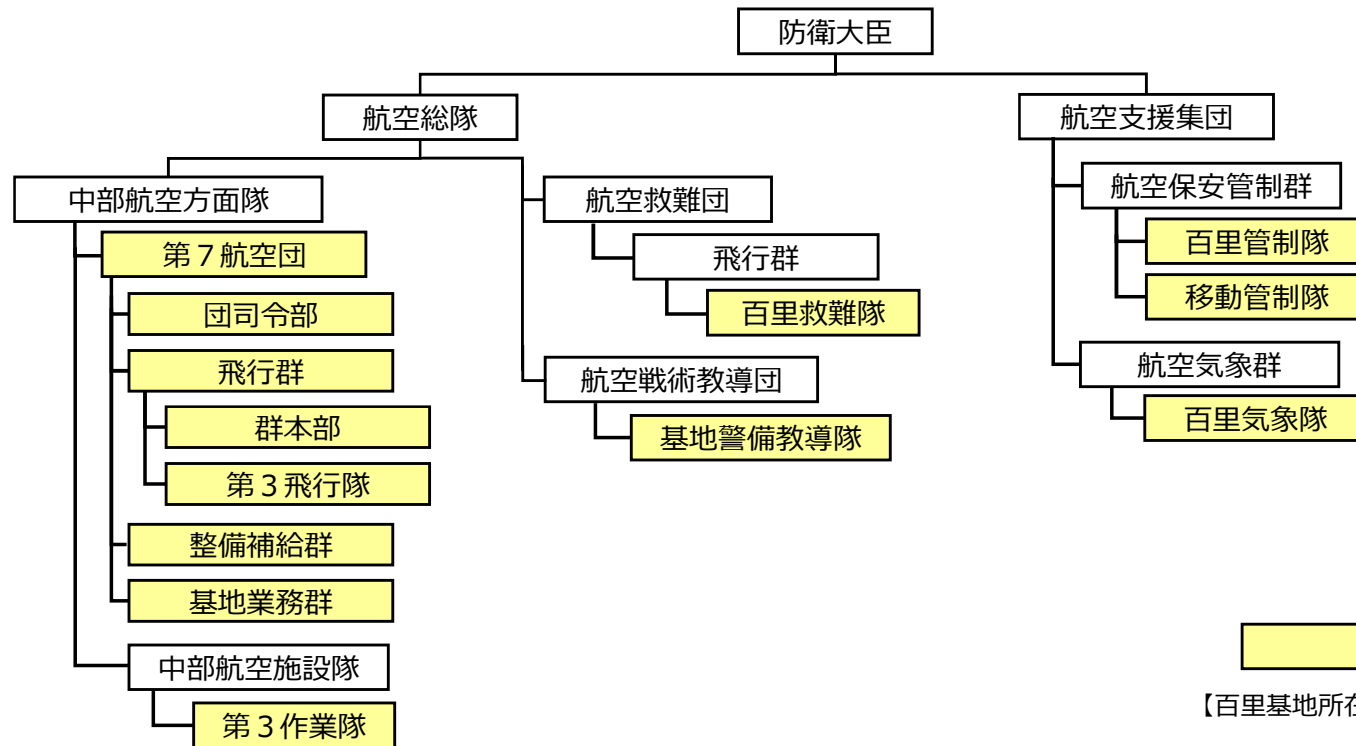
- 美保基地では、11機以上のKC-46Aを配備運用するために必要な地積を確保できないことから、新たな配備先について、**航空自衛隊の飛行場（基地）を対象とし、主として次の条件に基づいて総合的に検討・評価**を行いました。
 - 給油支援・進出帰投・再発進準備に要する時間を考慮した上で、**南西地域及び太平洋側地域をはじめとする必要な空域へ進出が可能な位置に所在すること**
 - **駐機場等の配備に必要な施設の整備及び地上走行をはじめとする配備後の運用の安全な実施のための地積を確保できること**
- その結果、**百里基地以外に上記の条件を満たす飛行場はありませんでした。**



KC-46Aの配備による人員数の変動

- 百里基地におけるKC-46Aの配備・運用にあたって必要となる具体的な要員数は検討中ですが、2機の配備に伴い操縦者や整備員・管理要員等が百里基地に所在することとなるため、**百里基地においては約60名程度※の人員増を見込んでいます。**
- 今後、**百里基地の定員に一定程度の変動が生じる際は、各年度の概算要求のタイミング等を捉え、御地元にも適切にお知らせします。**

(現在の百里基地所在部隊)



※ KC-46Aの配備部隊については検討中

●...百里基地所在部隊

【百里基地所在人員数：約1,390名（R7年度末時点）】

KC-46Aの運用要領と静粛性

KC-46Aの運用要領

- KC-46Aの具体的な運用要領については、配備後、最終的に確定することとなりますが、美保基地における飛行実績を基に算出したものを参考として申し上げます。概ね次のとおりと考えています。
 - 平均飛行回数は、1機あたり月平均で約10回。
 - 上記のうち、夜間・早朝飛行※の回数は、月平均で約2回。
- また、KC-46Aの運用にあたっては、民航機へ影響を及ぼさないよう進入のタイミング等を調整します。このため、現時点で配備による茨城空港の運用への影響はないと考えますが、将来的な民航機との共用にあたっては、茨城空港を利用する民航機の運用に支障が生じないように、関係機関と調整してまいります。

KC-46Aの静粛性

- KC-46Aのエンジンは、茨城空港・百里基地にも飛来実績があるB-767及びその派生型の自衛隊機（KC-767及びE-767）と同一であり、KC-46AはB-767とほぼ同等の静粛性を有しています。
- また、音の伝搬状況は周囲の地形や気象条件により異なるものの、KC-46Aを百里基地配備のF-2戦闘機と比較した場合、その騒音は格段に小さくなると考えられます。

（※）夜間・早朝飛行については、日没～翌日朝0800以前に離着陸したフライトを計上したものです。

KC-46Aの安全性①

- KC-46Aは、現在も世界で広く使用されているB-767旅客機を改修して開発された機種です。
- KC-46Aは、機種選定のプロセスにおいて、**防衛省があらかじめ安全性をしっかりと確認した上で航空自衛隊に導入した機種**です。令和3年に配備が開始されましたが、空自が配備運用する中でも機体の安全性は確認されており、**点検・整備には万全が期されています**。
- 米空軍がKC-46Aを運用する中で、飛行の安全や任務遂行に重大な影響を与えうる事項として区分された課題については、米国防省が改善のための取組を継続しています。我が国に関連にするものについては、確実に共有を受けておりますが、現時点において、**飛行の安全に重大な影響を与える課題は存在しないことを確認**しています。
- これまで、米空軍の運用も含めて重大な事故は発生しておりません。

B-767

- ✓ 日本を含む世界各国で運航。百里基地にも派生型の自衛隊機の飛来実績あり



KC-46A

- ✓ 設計上の安全性をFAAが確認。
- ✓ 米軍において安全に運用。墜落事例なし。



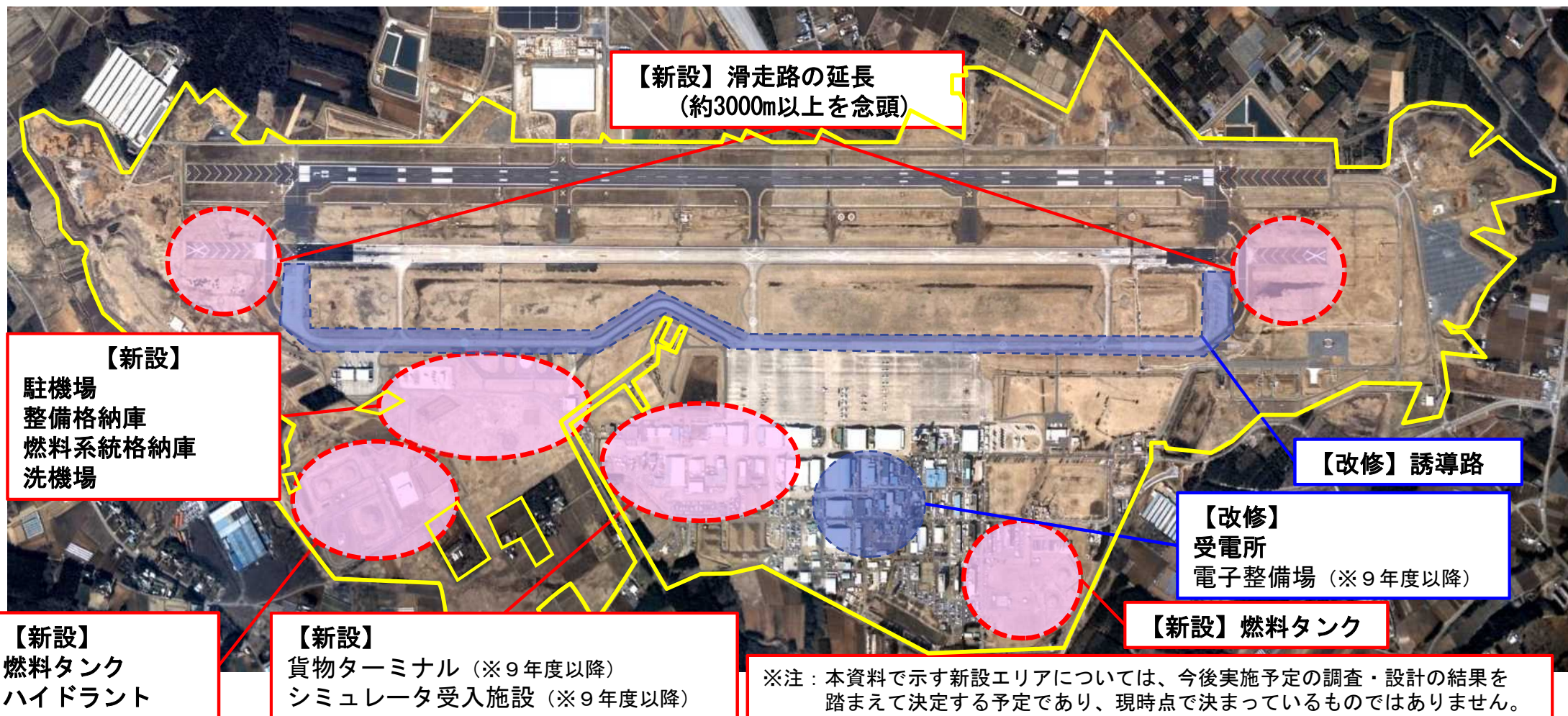
KC-46Aの安全性②

- 令和6（2024）年8月、空自KC-46Aが、訓練中に空中給油管（ブーム）が機体に格納できないままの状態で美保基地に着陸をするという事案が発生しました。
- 本件については、防衛省・自衛隊として事故原因の調査を行い、ブームを操作する隊員による通常であれば行わない操作の結果として発生したものとの調査結果を同年12月2日に公表しました。
- これを受け、航空自衛隊は、空中給油員の練度維持や事故調査結果を踏まえた教育を行ったほか、再発防止策として、米国が所有するシミュレーターを活用し、本事故状況を再現した対処訓練を実施しており、KC-46Aは安全に空中給油を実施できるものと考えています。また、今後も、整備用マニュアルに基づき機体の点検等を行い、適切に機体の管理を実施してまいります。



KC-46Aの配備に伴う関連施設

- 令和12年度にKC-46Aを百里基地へ配備するにあたり、令和12年度までに運用開始に必要な施設整備の完了を目指します。
- 令和8年度は、滑走路の延長、受電所の改修に必要な基本検討及び整備格納庫新設、燃料系統格納庫新設、燃料タンク新設、洗機場新設、駐機場新設、ハイドラント新設、誘導路改修に必要な調査・設計の実施を予定しています。



KC-46Aの配備に伴う関連施設

●施設整備スケジュール（予定）

2機配備

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	
整備格納庫新設 燃料系統格納庫新設 燃料タンク新設 洗機場新設	調査 設計	本工事（予定）					
駐機場新設 ハイドラント新設 誘導路改修	調査 設計	本工事（予定）					
滑走路延長	基本検討	調査（予定） 設計（予定）	本工事（予定）				
受電所特別高圧化改修	基本検討	調査（予定） 設計（予定）	本工事（予定）				
シミュレータ受入施設新設 貨物ターミナル新設 電子整備場改修		調査（予定） 設計（予定）	本工事（予定）				

※注：現時点においての計画であり、変更となる可能性があります。

KC-46Aの配備に伴う関連施設



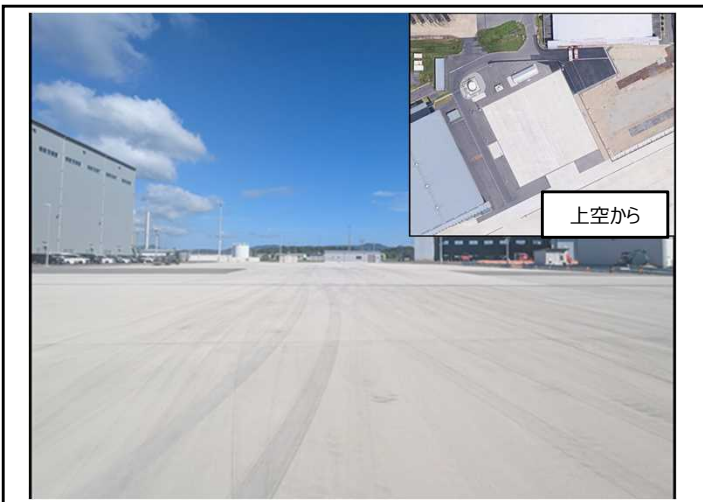
整備格納庫 (イメージ)



燃料系統格納庫 (イメージ)



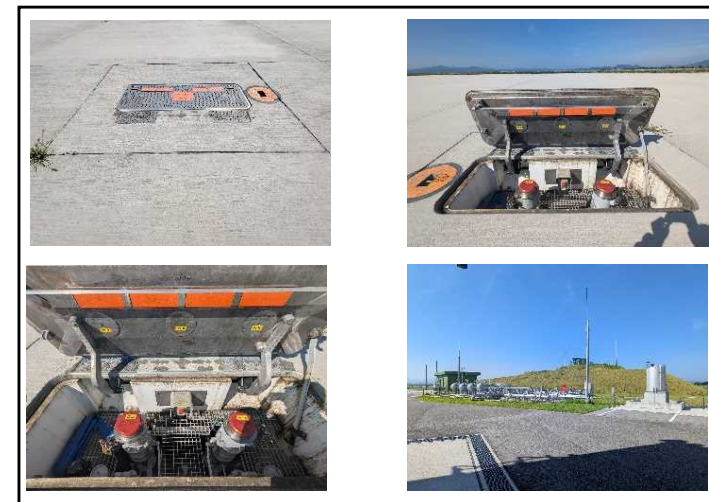
燃料タンク (イメージ)



洗機場 (イメージ)



駐機場 (イメージ)



ハイドラント (イメージ)

KC-46Aの配備に伴う関連施設



誘導路（イメージ）



シミュレータ施設（イメージ）



貨物ターミナル（イメージ）